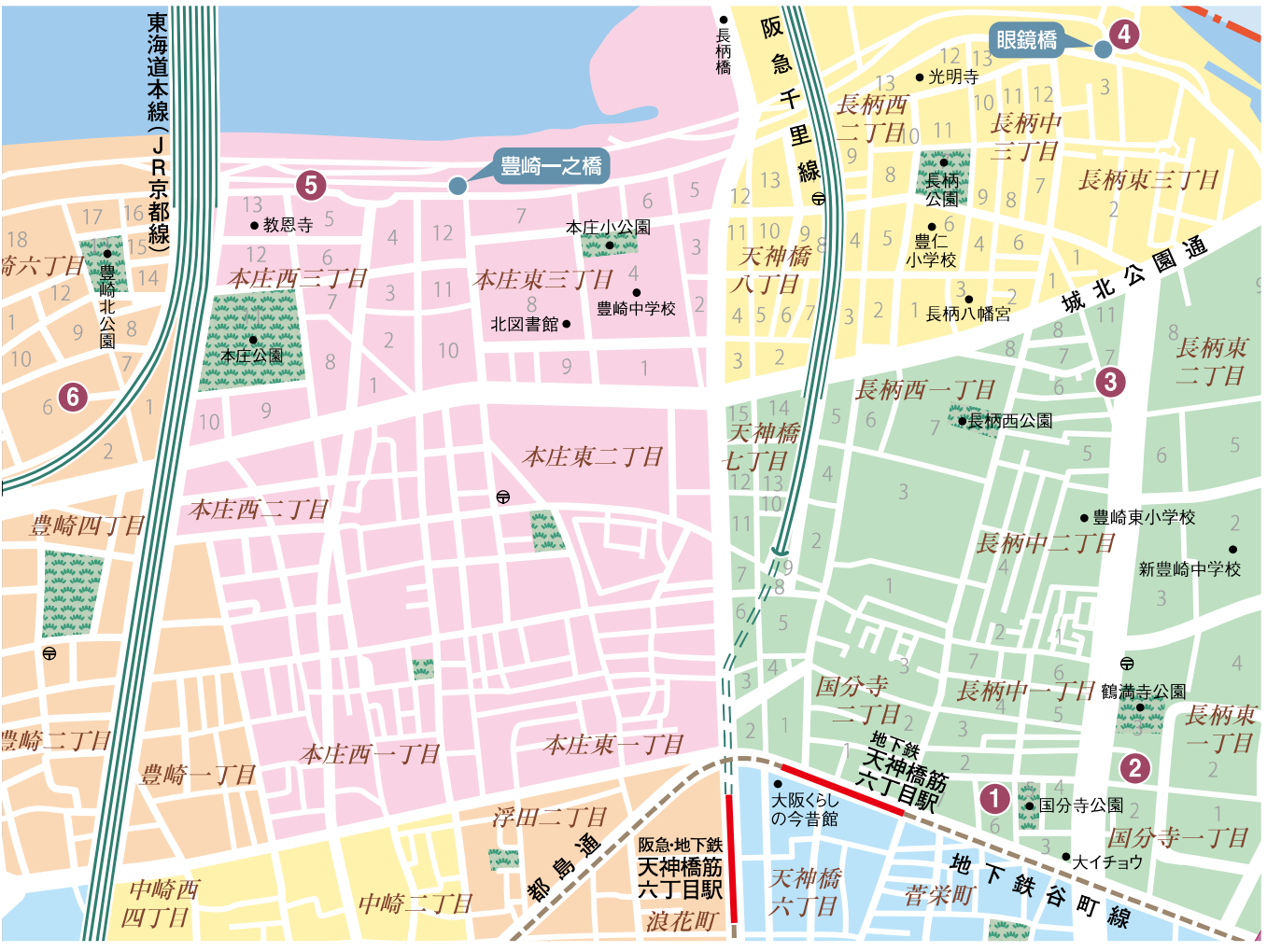
淀川の風に歴史を感じるコース

淀川とともに歴史と文化を重ねてきたまち

淀川と深く関わりあいながら歴史、風土、文化を築いてきたまち。川が与えた恩恵と翻弄（ほんろう）。見せる顔は多様です。時間がとれないときなどエリア別に分けて歩いても十分楽しめます。

5.3kmコース

地下鉄天神橋筋六丁目駅
1 国分寺
2 鶴満寺
3 鶯塚
4 毛馬第一閘門
5 神木の楠
6 豊崎神社
7 佐伯祐三生誕の地
8 富島神社
9 カンテ・グランデ中津本店
10 南蛮文化館
阪急中津駅



豊崎東 Toyosaki-higashi
豊仁 Hojin
本庄 Honjo
豊崎 Toyosaki
中津 Nakatsu

study

長柄運河跡に今も水は流れている

淀川改良工事で出た土砂を運ぶために、新淀川の左岸沿いに開削されたのが長柄（中津）運河です。完成は明治35年（1902）。
昭和44年(1969)～46年(1971)、運河は埋め立てられましたが、地下にコンクリートの箱型水路がつくられ、現在も水は流れているのです。

長柄運河に架かっていた橋

眼鏡橋
（長柄東3丁目3河川公園内）
大正3年（1914） 架設。高欄は補修されていますが、当時のままのデザインです。

豊崎一之橋
（本庄東3丁目）
今は堤防に上がるための橋として使われています。

Start

❶国分寺（こくぶんじ）

「国分寺」とは、聖武天皇が741年に国ごとに建立を命じた寺院のこと。もともと660年ごろに建立されていた「長柄寺」が、聖武天皇の命を受けて「国分寺」と称するようになったといわれています。現在の寺院は昭和40年（1965）に再建されたもの。朱色の鐘楼では、1人1回、鐘を打つことができます。

◆住所：国分寺1丁目6の18

❷鶴満寺（かくまんじ）

創建は奈良時代といわれていますが、現在地に完成したのは宝暦3年（1753）。桜の名所として有名で落語にもなっています。
高麗時代の朝鮮銅鐘（国の重要文化財）と慈覚大師の阿弥陀如来（府指定文化財）で有名。大岡越前守が寄進した石灯籠や俳人・上島鬼貫（かみじまおにつら）の墓碑、献体第1号の奥宮銀三郎の墓などもあります。
八角形楼閣造りの観音堂が目印。

◆住所：長柄東1丁目3の12

❸鶯　塚（うぐいすづか）

鶯塚の由来はいろいろあります。長柄長者の娘が死ぬとかわいがっていた鶯も後を追うように死んだので、共に埋葬した。孝徳天皇が長柄豊碕宮にいたときの女官・鶯式部が埋葬されたなどなど。地域の方々が熱い思いで守り続けている鶯塚です。大きな椋（むく）の幹の下にある「鶯塚」と刻まれた小さな石碑をお見逃しなく。

◆住所：長柄東２丁目　路上

❹毛馬第一閘門（けまだいいちこうもん）

日本初の大規模河川改修（1896～1910）である淀川改良工事の中でつくられたのが毛馬閘門です。
現在の毛馬閘門の完成に伴い廃止された第一閘門と洗堰（ともに国の重要文化財）の周辺が整備され公園に。淀川改修紀功碑（重要文化財附指定）や長柄運河に架かっていた眼鏡橋、毛馬の残念石など歴史を感じながら、一面の緑と淀川から吹く風が気持ちのよいスポットになっています。

◆住所：長柄東３丁目３

▲淀川改修紀功碑

◀淀川河川公園
長柄河畔地区

❺神木の 楠（しんぼく　くすのき）

豊崎一之橋から少し西に進むと、りっぱな楠が見えます。この楠は代々の庄屋屋敷内で神木として祀られていましたが、長柄運河開削工事のため、楠だけが残ったのです。庄屋家に伝わる話では「この楠をよけて運河をつくったので、そこだけ川幅が狭くなり、船が渋滞したとか。樹齢は７～800年でしょうか」。淀川改良工事を間近で見てきた楠です。

◆住所：本庄西３丁目５の12　路上

❻豊崎神社（とよさきじんじゃ）

７世紀、大化の改新ののち都を飛鳥から難波長柄豊碕宮（なにわながらとよさきのみや）に遷された孝徳天皇が祀られています。長柄豊碕宮については、上町台地にあったという説が有力ですが、一説では豊崎神社のあたりともいわれ、正暦年間（990～995）に社殿を建てお祀りしたのが、神社の起こりと伝えられています。

◆住所：豊崎６丁目６の４

⑦佐伯祐三生誕の地

パリを描いた夭折の天才画家・佐伯祐三は明治31年(1898)、光徳寺の次男として生まれました。古刹・光徳寺を継いだ兄の祐正は社会事業家として活躍。理想を追求した情熱の兄弟です。

◆住所：中津2丁目5の4
光徳寺内

▼十三思昔会の碑

⑧富島神社

室町時代にはすでに存在して牛頭(ごづ)天王社と称されていたそうです。その後、複数の神社の合祀を経て、明治43年(1910)富島神社に。
西北の隅にある「十三思昔(じゅうそうしせき)会の碑」は、淀川改良工事で沈んだ旧十三地区の住民たちが「今昔の情禁じ難く」結成した親睦会により建立。淀川改良工事が生んだ一つのドラマです。

◆住所：中津2丁目5の10

⑨カンテ・グランデ中津本店

花と緑に覆われた一角。中津生まれのオーナーが昭和48年(1973)にオープンさせました。「カフェ」という言葉がなかった時代から中津に存在したカフェスタイルの店です。

◆住所：中津3丁目32の2
アルティスタ中津 地下1階

Goal

⑩南蛮文化館

しゃれた2階建てに南蛮美術品やキリシタン関係の遺品が展示されています。故・北村芳郎さんのコレクションによる私設美術館です。
狩野光信筆の南蛮屏風(重要文化財)はとくに必見。ほかにも花鳥蒔絵螺鈿卓(伊達家伝来)やルソン茶壷(細川家旧蔵)など、ゆっくり時間をかけて堪能してください。
『女の一生』で有名な劇作家・森本薫の生家は、ここの南側にありました。

◆住所：中津6丁目2の18
◆開館：5月と11月のみ(月曜日は休み)

萩の寺の山門前に架かっていた「萩の橋」

Study

中津1丁目11の角に、「元萩之橋」の石碑が建っています。このあたりは能勢街道が通り、人と物が行き交うにぎやかな場所でした。萩の橋は街道を横切る水路に架かっており、萩の寺として有名な東光院の山門の前にありました。東光院は「南の四天王寺、北の東光院」と称された格式ある古刹。大正3年(1914)、豊中市の曽根に移りました。